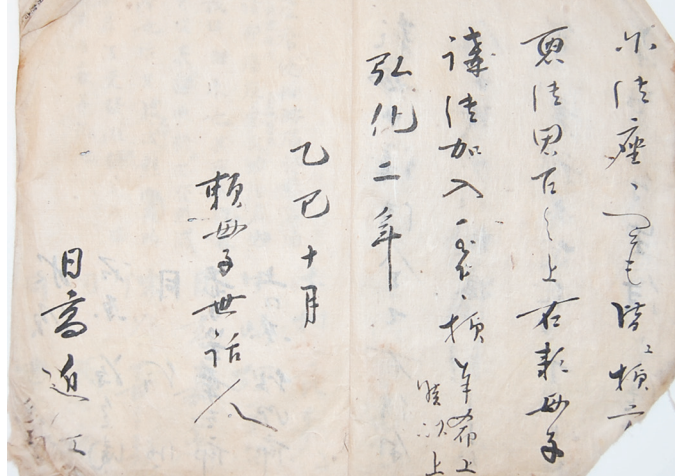
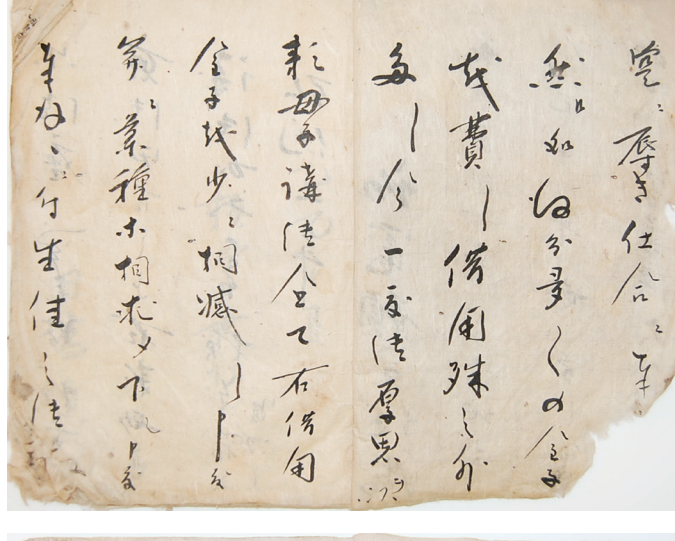
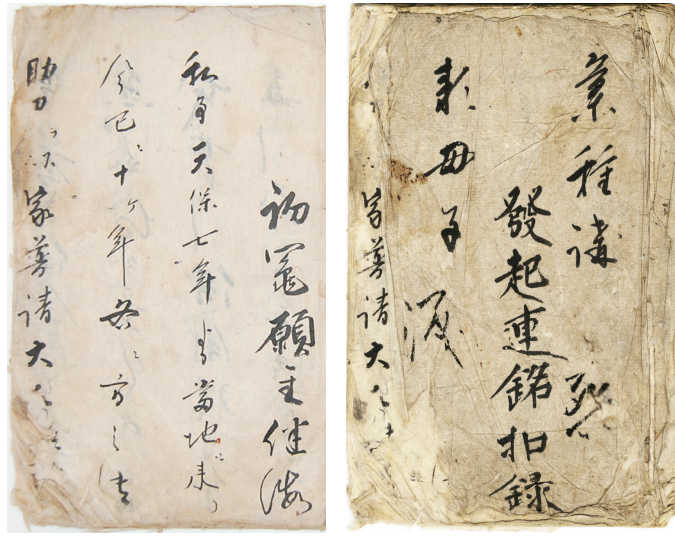


【実施理由部分の大意】
天保七年から当地に来て十年。皆様の支援で家が完成したことを幸せに思う。
しかし、出費が多く借金も増えたので、講を行って借金を相殺してもらいたい。
また、薬の購入代にも充てたい。
どうか悪く思わず、講への参加をお願いする。



講とは有志が集まって資金を出し、順番に一人が受け取る互助の一種で、日本各地で行われていました。今回は、家の建築で生じた借金の相殺と薬の購入費用のため、健海を受取人と決めて行われました。弘化二年（1845）十月の日付があり、家とは若山医院（牧水生家）を指しています。

講は参加者同士の信頼で成り立つことから、移住者である健海が地元坪谷住民との間に深い絆を作り上げていたことを物語っています。



砂山の蔭に早やなりぬ何やらお別れ能惜しき酒田の港

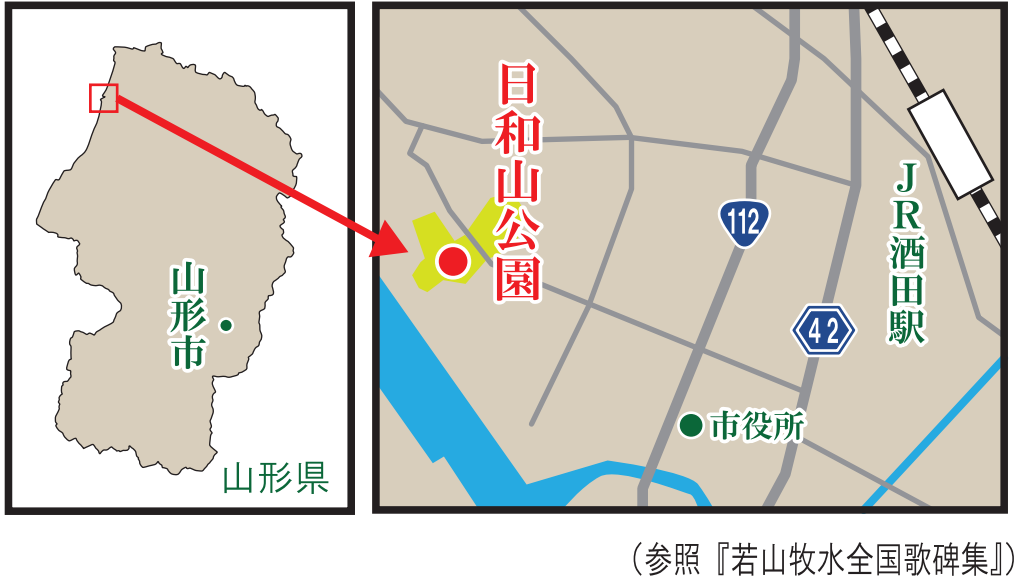
昭和59年建立

酒田港に在りて、八日午前四時半河口を出る渡津丸に乗って私は酒田を立つた（中略）日よく晴れて海は黒いほど碧い（中略）天の一角には丁度いま別れて来た河口の渾りの様に円を作つてゐる雲が白々と輝き散つてゐる（北国紀行より）

牧水は大正6年8月、秋田の歌会に出席した後、山形県酒田に向かいます。この歌は、次の目的地新潟へ向かう船上で詠まれました。

紀行文「羽後酒田港」の中で牧水は、「中学で地理を習い始めた頃、いつかは是非行ってみたいと思った三つの古い港があった」と書いており、その1つが羽後酒田港でした。

歌碑は酒田市によって港近くの日和山公園に建てられました。歌の筆蹟は地元書家によるものです。園内には斎藤茂吉ほか、酒田ゆかりの文人墨客の碑が各所に建てられています。



企画展「牧水 43年の生涯」 始まります

7月5日～

第1期「日向若山家の歴史」 所沢出身の健海が坪谷に若山医院を開業

牧水生誕140年記念企画展「牧水 43年の生涯」がいよいよスタートします。およそ1年をかけ3期仕立てで進めてまいります。
今回、第1期は所沢出身の祖父健海がなぜ坪谷の地を選び、移住を決断し、若山医院開業となったのかをひもといていきます。健海が坪谷の地を選んでいなかったら・・・牧水生誕から大きく歴史が変わってしまいます。繁（牧水）誕生以前の祖父健海にスポットを当てた「日向若山家の歴史」をどうぞお楽しみください。





大正時代の牧水生家

他にも健海と言えば、「種痘人名録」が有名です。県内初と言われる種痘（天然痘予防接種）を行い、初めに長男立蔵に接種したことが「種痘人名録」に記載されています。常時、第1展示室で表紙は目にすることができますが、今回はより詳しく展示いたします。（※種痘は宮崎市の医師福島退庵と共同で行われました。）

ここに生誕地だからこそお見せできる資料を今回も準備しています。どうぞお立ち寄りいただき、存分にお楽しみください。

『若山牧水全歌集』伊藤一彦編 いよいよ今月刊行!!



若山牧水全歌集
伊藤一彦編

決定版全歌集、ついに刊行！
7月下旬刊
定価5,500円（税別）

恋、弥、酒……
天地（あめつち）と魂の奥処が共振する歌の真髄。
万物と親和した“未来の人”。
若山牧水ルネサンス、ここに始まる

角川文化振興財団作成チラシ引用

牧水の高弟、大悟法利雄氏編集『若山牧水全歌集』が刊行されたのが遡ること昭和50年。それから50年の時を超えてついに伊藤一彦先生編集『若山牧水全歌集』が刊行の時を迎えました。
全十五歌集に、新出歌を含む未収載歌を加えた約9,600首を収録。更に、これまでに発表された選りすぐりの牧水論12本を掲載。はやる気持ちを抑え、刊行の日を待ち望んでいます。

文学館でも取り扱いいたします。どうぞお立ち寄りください。
遠方の方には、代金と送料をご負担の上お届けいたします。
ご連絡お待ちしております。

伊藤一彦短歌実作講座 今年度も始まりました

伊藤先生大ファンの方々、短歌愛好者の方々が今年も集まりました。25名が自作短歌を持ち寄り、全員で短歌の世界を味わいます。伊藤先生からアドバイスがあった歌を紹介します。



歳いったな十年ぶりに会ういとこおはぎで接待祖母と重ねられ
○「歳いったな」の表現がおもしろい
○歌には終止形が必要…「祖母と重ねらる」（文語）か「祖母と重ねられる」（口語）がよい

いつの間に草丈のびて根をはって畑への無沙汰詫びながら抜く
○作者の優しさが感じられる
○「いつの間にか」…字余りになっても「か」があった方がよい

夕陽浴び鉄砲ユリの影まさに跳ねるカモシカシャッターを切る
○他の人が考えない発想で独特な歌
○カタカナが続くのは避ける…「に」を入れるか、スペースを空けるか

こんな歌もありました。印象に残った2首です。
「へのかっぱ、死んでたまるか」を諦めて諦めさせた八十五日
朝もやの道の駅にはカタカタと採れたて野菜の台車の音か

伊藤先生より
○構えないで作る
○何かもらったら歌で返す

歌でお返し・・・
ステキですね
もらってみたい
贈ってみたい



牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

だんだんにからだちまり大ぞらの星も窓より降り来るごとし
だんだんにからだちまり おおぞらの ほしもまどより ふりくるごとし

伊藤一彦先生の『若山牧水の百首』引用。
私が記憶するかぎり誰も取りあげたことがない一首である。
ユニークさをもつ秀歌と思う。上二句の「だんだんにからだちまり」の主語は作者だろうか。それとも「大ぞらの星」だろうか。前者だと大空の下で自分の体の小ささを感じている表現になる。後者だと星たちがだんだんに体を縮め近づいてきて窓から入ろうとしている歌になる。どちらにしても面白い。独特の身体感覚と宇宙感覚である。「夜の窓」四首中の作。牧水はいつでも窓をあけるのが好きだった。大正五年の作。



詠まれた季節はもう少し後のようだが、身体、星くずの小ささと対照的に大空の壮大さが飛び込んできた。夏日が続く中、夜くらい空を眺めたいと思い、この1首を選んだ。また、誰も取り上げることがない歌とあったので、一人でも目に留まればと思ったところである。

若山牧水生誕140年記念事業が続きます
8/9～10(土～日) 第15回牧水・短歌甲子園
9/16(火)「ゆかりの地めぐり」「記念シンポジウム」「交流会」
9/17(水)第75回牧水祭
詳細は若山牧水ホームページをご覧ください

だんだんにからだちまり大ぞらの星も窓より降り来るごとし
牧水

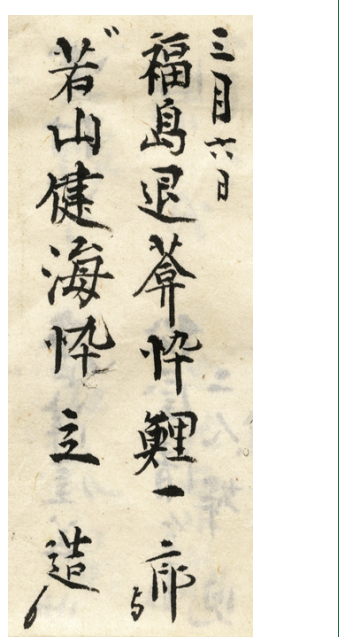
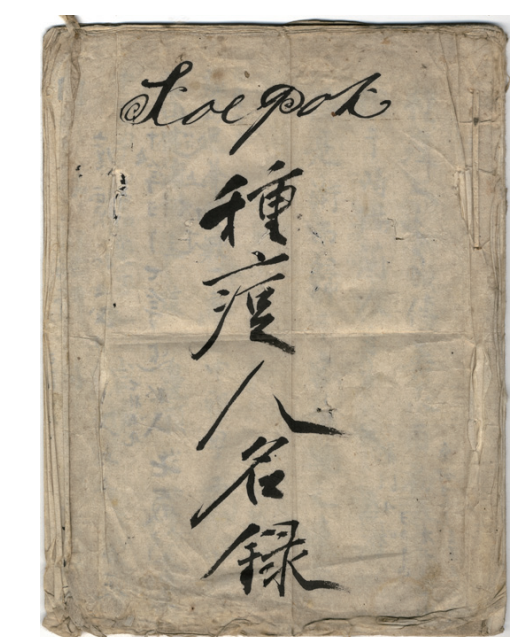
企画展「牧水 43年の生涯」

第1期「日向若山家の歴史」 始まります

【会期】
7月5日（土）～9月28日（日）

令和10年の牧水没後100年に向けて、牧水43年の生涯と現在まで受け継がれる顕彰活動を紹介する企画展が始まります。

今期は、若山繁（牧水）誕生前に注目。埼玉県出身の祖父健海が坪谷で若山医院を開業するまでの経緯のほか、当時の若山家について、随筆「おもひでの記」や残された資料をもとに紹介しています。



『種痘人名録』

江戸末期、健海は宮崎市の福島退庵と共に県内初の種痘（天然痘予防接種）を行います。『種痘人名録』は二人の息子への接種に始まり、宮崎市や美々津で行った記録です。明治時代に坪谷村周辺の人々に行った記録と合わせると400名ほどになります。

今回初めて、それぞれの全内容を公開していますので、ぜひご覧ください。

若山牧水記念文学館
〒883-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地



ホームページはこちら

■利用案内■
【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）
【休館日】月曜日（祝日は除く）年末年始（12月29日～1月3日）
【入館料】小・中学生/100円 高校生以上/310円（20名以上の団体は2割引）
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp